

市町村職員専門研修（兼）公民館等職員専門研修 実施レポート

期日：第1回 8月30日（金）／第2回 9月6日（金）／第3回 10月12日（土）
会場：秋田県生涯学習センター 第1研修室ほか

「障害者の生涯学習支援」は、生涯学習・社会教育行政の重要な役割として、今後さらなる取組の充実が求められています。しかし、現状では実践事例が不足していることから、本研修では市町村の職員による運営チームを作り、モデルとなる事例開発に取り組むこととしました。県内4市から6名の職員が参加し、ワークショップを重ねて講座を企画しました。最終日には実際に受講者を募集して講座を運営したことで、障害者を対象とした講座づくりの視点やノウハウを共有できました。

【第1回】8月30日 10時～16時 参加者16名（うち市町村職員等7名）



<講座テーマの検討中>

はじめに生涯学習センター職員から、「あきたスマートカレッジ」で行った講座の概要を説明したあと、運営チームのそれぞれから、これまでに障害者の生涯学習に関わってきた経験について意見交換を行いました。

続けて講座のテーマや切り口、対象、タイムテーブルなどを話し合いました。障害者理解のためには「時間を共有する」ことが大切であり、「一緒に何かをやってみる、何かを作る」ことを講座のコンセプトに据えることとしました。

切り口として、スポーツや工作といったアイデアが出ましたが、最終的には「防災」を切り口とし、災害時を想定した食事を一緒に作るという内容で企画を進めることとしました。講座のタイトルは「障害者の防災講座～共生社会をめざして～」とし、今後の役割分担と、次回までに準備・作成するものを確認して1回目を終了しました。

【第2回】9月6日 10時～16時 参加者16名（うち市町村職員等6名）

2回目は、1回目の内容を踏まえ、より具体的に講座の内容や準備について協議を重ねました。

講師の都合も考慮して全体のタイムテーブルを組み立て直し、講座の目玉となる「防災食づくり体験」については、必要な作業時間や参加者のアレルギー等にも配慮してメニューを考えました。

チラシやアンケート、進行シナリオの作成のほか、ワークショップに必要な物品や食材の準備、会場のレイアウトや参加者の動線など、細かい部分にまで運営チーム内で積極的に意見を出し合って内容を詰めていきました。

時間内に詰めきれなかったところは、メールによる連絡で確認・共有し合うこととし、広報はそれぞれの動きに委ねて2回目を終了しました。



<真剣な協議が続きます>

【第3回】10月12日 10時～17時 参加者21名（うち受講者7名、市町村職員等6名）



<運営チームの自己紹介！>

講座の当日となる3回目は、午前10時に運営チームが集合・打ち合わせを行い、役割分担に従って会場設営や防災食づくりの準備を行いました。

午後から講座が始まり、車椅子の方など7名が受講者として参加しました。

講師は、防災キャンプの普及活動で活躍している日本赤十字秋田短期大学の及川真一先生にお願いしました。東日本大震災の経験を交えた講話では、災害のために特別な備えをするのではなく、普段の生活の中で災害を意識したものを使うことや、被災地では障害者であっても必ずしも優先されるわけではないので、自分で自分を守る備えが大切という話がありました。また、それぞれの障害によって必要なものは異なるので、自分にとって絶対に必要なものは何かを考えておくべきというアドバイスがありました。

続いて屋外で防災食づくりの体験を行い、ポリ袋を使った炊飯と肉じゃがを作りました。味は上々で、受講者も意外な調理方法に驚いていました。当日は偶然にも大型の台風が接近する中での開催となり、防災について考える絶好の機会となりました。

運営チームは、打ち合わせの内容をもとに、講座の進行や受講者への支援のほか、準備や片付けといった裏方業務にも臨機応変に対応し、トラブルもなく無事に講座を終えることができました。

時間の都合もあり、当初予定していた振り返りの協議はメールを使った書面での意見交換としましたが、運営チームのそれぞれが多く経験を得ることができ、今後の全県域での展開に向けて期待が高まる研修となりました。



<たき火で沸かしたお湯で炊飯>